

学生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2017 年 11 月 1 日 発行
(通巻 475 号)

現代座レポート No. 72

- ・「川崎平右衛門」新たな展開へ (1)
- ・地域の協力で「学童保育」は守られるか (2)
- ・誰でもできる朗読教室・4 期生朗読発表会 (3)
- ・『星と波と風と』帆船で巡った太平洋 1 万 6 千キロの旅 (4)
- ・よみがえる『星と波と風と』/ケニメデ大酋長のこと (5)
- ・ブラジル力行会百年記念集会からの報告 (6)
- ・3F ホールの催し/地下ホールの催し/会館日誌 (7)
- ・お知らせ 会員入会、継続、寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987

「川崎平右衛門」新たな展開へ

負けるな！ 心大きく育って欲しい

11月3日、学芸大文化祭にあわせて、学芸大学の中にある学童保育施設「こどもモードハウス」で東京学芸大学放課後児童クラブ「森の子ども教室」の子どもたちによる『へいもんのものがたり』が上演されました。

15人以上を募集しましたが1年生5人、2年生1人のたった6人。だからこそ「負けるな！ 心大きく育ってほしい」とこの子たちのための台本をつくり、仮設舞台をつくり、超満員の劇場になりました。(詳細は2ページに)

第1回川崎平右衛門・研究会

今年5月、「川崎平右衛門顕彰会・研究会」が設立され、これから本格的に川崎平右衛門の歴史的役割が研究され、顕彰していくこととなります。その第一回研究会が11月23日(祝)に府中市郷土の森博物館で行われます。

◎記念講演「享保の改革における大岡越前・川崎平右衛門の役割」 研究会会長 学芸大学副学長・大石学教授

◎「川崎平右衛門と小金井桜」 小金井市長・西岡真一郎

◎鼎談「今甦れ！ 川崎平右衛門」 研究会会長・大石学教授、ワーカーズ連合会・永戸祐三氏、現代座・木村快。

どなたでも参加できます。

参加費には研究発表レジメのほか、特製川崎平右衛門弁当が含まれています。



学童保育施設に舞台を組み立て、背後に黒幕を吊り、照明を設置。



～ 第一回川崎平右衛門・研究会 ～

日時： 2017年11月23日(祝)
9時30分受付、10時開場～16時終了
場所： 府中市郷土の森博物館会議室
参加費： 3000円(講演、研究発表のレジメ集、
弁当代・博物館入園料等)
連絡先： 電話 080-5895-3960
FAX 03-5767-8832
メール walk@tbz.t-com.ne.jp

地域の協力で「学童保育」は守られるか 貴重な教訓

◆取り組みの経緯

6月、東京学芸大学放課後児童クラブから学芸大文化祭で「武蔵野の歌が聞こえる」を子どもたちで上演したので協力してほしいと要請がありました。

学童保育は文科省の管轄ではなく、厚労省の管轄であるため放置されており、学芸大では学童保育を教育システムに取り込み、学生の教科単位にも対応させる

ので、「地域の子どもを地域で育てる」をテーマに、学芸大の学生も参加し、附属小学校だけでなく地域の小学校に

も呼びかけたい。子どもたちが多様な大人と関わりながら「地元の歴史を学ぶ機会にできれば」という趣旨でした。

当初は上演許可を求められただけだと思っていましたから「小学校1年生から6年生までに呼びかけますが、15人集まらなかつたら中止しましょうか」と言われた時も「やりたいという子どもがいいたら、3人でも5人でもいいじゃないですか」と言っていました。

ところが募集締め切り日の電話では「今は2人だけです」という返事。やはり教育関係者は地元の歴史には興味がないのか……。

7月20日にスタートしてみると、参加者は附属小学校の1年生男子3人と2年生女子1人だけ。学生の参加者は

中村保好 矢川千尋 八木浩司 木の下敬志 木下ちぎり 八木澤賢 半田紀子



いません。スタッフは地域の活動家として参加したピアノの半田紀子さん1人。半田さんが子ども用台本を一生懸命書いていましたが、どつにもなりません。現代座では児童演劇の専門家八木澤賢、木の下敬志に協力を頼みました。

◆ベストをつくせ

稽古は附属小学校の体育館を使用しましたが、まだ学校生活になじめない1年生たちは走り回って集中できません。器具の保全など大変神経を使わなくてはなりません。いったん中止も考えました。けれど責任を感じた半田さんが「頑張つてやってみよう」というので、学童保育の試みを失敗させないためにも、結果がどうあれ、参加した子どもたちがやって良かったと思えるようにベストを尽くそうと話し合いました。

◆子どもと大人で

もう子どもだけでの上演は不可能なので、急遽、大人と子どもが一緒に出演する合唱構成劇に台本を書き直し、木下ちぎり、八木浩司、中村保好にも協力してもらうことに

して、支援俳優6人に。当然そんな予算はありませんから、現代座が全責任を持つことで覚悟を決めました。途中からまた

1年生が2人、学芸大の学生・高野真由さんと一橋大学の学生・青木文太郎さんが応援に駆けつけてくれました。



台がありません。けれど子どもたちには舞台上立つよるこびを体験させたいと、本格的な仮設舞台をつくり、舞台照明を当てることになり、現代座の劇場スタッフも動員。大変な事業になりました。俳優たちは仕事を休んで毎週稽古に通ってくれました。そして子どもたちと悪戦苦闘です。

◆「不特定団体の連中！」

附属小学校体育館を使用することは大変でした。付属小学校体育館の報告によれば、一例として「トイレを探して体育館を出たとき、副校長と名乗る男が飛び出してきて、険しい表情でとがめられた。稽古風景を見せ、事情を説明すると、自校の子どもたちなのに、『あの不特定団体の連中か！ トイレに行きたければあの連中に相談しなさい』と追い払われた。学校も地域の大人も協力して子どもを育てようとする時代に、地域の支援者に対して学童保育を『不特定団体の連中』と呼んではばからない副校長。こんな恐ろしい学校があるのかと、教育行政の現実を見せられた気がする」。

事情をよく調べず、「できることは協力しますよ」と引き受けたことは私たちのミスです。地域の現実を知る貴重な教訓になりました。

◆ありがとう

公演当日、観客は60人超で超満員。子どもたちは大奮闘。涙を流しながら拍手を送る父兄。「ずいぶん子どもを扱ってきたが、1年生たちがよくあそこまで台詞を覚えたこと、大人と一緒に大声で歌えるようになったことに驚いている」と演出の八木澤も大絶賛。

最後まであきらめずに協力し続けてくれた支援俳優たちには感謝せずにはいられません。(木下美智子)



前列左から西山かず子、井上尚子、木村サチ子、長谷川葉月、環笑子、今井治江。
後列左から石川秀樹、小林陽太、古明地節子、高嶋悦代、齋野良子、手塚修、木谷道宣。

NPO現代座 誰でもできる朗読教室 4期生 朗読発表会

朗読教室は2015年10月から始まりまし
た。6ヶ月間12回の講座で、最後に舞台での
発表をします。4期生の発表会が9月27日に
現代座3階小ホールで行われました。

第4期からは昼のクラスと夜のクラスがで
き、受講生は全部で13人でした。発表会では、
怪我のため急に参加できなくなってしまうた
下向（しもむかい）さん以外の12人が個性豊
かなのびのびした朗読を披露しました。
11月からは、第5期の昼と夜のクラスがス
タートします。
前期から継続受講の人もいますが、初心者
も大歓迎です。

4期生発表会、プログラム

古明地節子	太宰治作『燈籠』
手塚修	三島由紀夫作『美神』
井上尚子	新美南吉作『ごんぎつね』
西山かず子	斎藤隆介作『ソメコとオニ』
高嶋悦代	夏目漱石作『草枕』
木谷道宣	木村快作 『武蔵野の歌が聞こえる』
齋野良子	芥川龍之介作『魔術』
今井治江	山川方夫作『夏の葬列』
小林陽太	安房直子作『きつねの窓』
木村サチ子	藤沢周平作『うぐいす』
石川秀樹	筒井康隆作『笑うな』
環笑子	太宰治作『恥』

朗読の魅力にはまった私 手塚修

「芥川龍之介作『蜘蛛の糸』……正面から照明が当たっている
で客席は見えないが、お客様の視線は私の姿に集中している。ひと
呼吸おき、静かに舞台中央の椅子に座る。これから本文と思うと否
応無しに緊張する。」

「ある日のことでございます。お釈迦様は極楽の蓮池のふちを、
独りでぶらぶらお歩きになっておりました……」

本文を読み始めると徐々に物語の世界にのめりこんでいく。無我
夢中に読み進み、なんとか最後まで終え、静かに本を閉じると客席
から大きな拍手。やり遂げた安堵と達成感。お客様からの拍手の何
とも言えない心地良さと喜び。昨年3月の「誰でもできる朗読教室」
第1期の発表会。私が朗読の魅力にはまった瞬間でした。

きっかけは、一昨年の9月に現代座で行われた「武蔵野の歌が聞
こえる」の観劇でした。当日配布の朗読教室生徒募集のチラシを見
てなんとなく惹かれたんです。翌年還暦を迎える自分の心に何か変
化を求めていたのでしょうか。これまで出来なかった「習い事」にチャ
レンジしてみようと一念発起、朗読教室に入会しました。早いもの
で以来2年間、4期目の発表会を9月27日に終え、11月からは5期
目になります。

教室は月2回の講座でひとつの作品（短編文学小説）を練習して
いきます。このように書くとき短く感じますが、講師の長谷川
葉月先生に約3時間、熱心に指導していただいております。台本を
いただいて次の授業までの2週間、自分で何度も読み込んでいくと
物語の世界観や作者の意図が自分なりに解釈できるようになりま
す。私はこの過程が朗読の醍醐味だと思っています。

朗読教室のもう一つの魅力は、毎回発声練習をきっちりやること
です。発声の仕方や呼吸法、イントネーションなど、基本を繰り返
します。おかげで最近私は多くの友人から「滑舌が良くなった」と
褒められます。また、大きな声を出すことは健康にもいいんです。
皆さんも一緒に楽しみましょう。「朗読の世界へようこそ！」

星と波と風と

帆船で巡った太平洋1万6千キロの旅



武本 匡弘
たけもと まさひろ
元統一劇場劇団員。
日本サンゴ礁学会会員。
ビニふくしまプロジェクト会員。
NPO現代座正会員。



太平洋の島々に住む人たちは、古代東アジアから進出してきた私達と同じモンゴロイド。しかも、海流や貿易風に逆らった航海でした。同じように、東に輝く星を目当てに進み、いつか自分もその経験をしてみたい。極めて個人的な理由でのこのプロジェクトで、日本からヨットでミクロネシア巡航の旅をしています。(写真は北緯7度の海上です)

◆洋上で目にしたこと

一度も他船と遭遇することなどない広い太平洋を航海中、最も多く目にしたのは大量のゴミや漂流漁具、そして海水温が一度も30℃を下回ることが無い

という無気味な現実でした。実際に航海していて、その現実が、地球の生命活動にただならぬ脅威を与えているほどの規模であるという事を実感しています。

◆マーシャルで実感した現実

「沈みゆく島」、「沈みゆく国」などと報道される太平洋の島々。特に海抜わずか数メートル程しかないマーシャル諸島の島々は、海岸浸食に脅かされ、早魃や気温上昇による日照り等、厳しい現実さらされています。植民地支配、太平洋戦争、原水爆実験による核の被害と、他国に押し付けられてきた負債の数々は、彼らの命と生活に重くのしかかっているのです。

◆ヤップ島の変貌

経済先進国と言われる国々が、小さな国や島々に様々な問題を引き起こしています。

現代座の作品『星と波と風と』で描かれた世界はそのまま、いまだミクロネシアの島々に影を落としているのです。ヤップ島でも作品の制作後、ケニメドさんが亡くなってほんの20数年の間に大きな変貌がありました。

「経済援助」という名による日本のODAとゼネコンによる開発行為は、ろくなアセスメントもされずに行われ、自然を破壊し、住民間の対立や家族、親戚間の亀裂を引き起こしました。これは正に日本の原発による地域分断の現実と二重写しです。そこには日本側の利益になる事はあっても地元の見れば決して「援助」などとは言えない現実がありました。

伝統文化、自然に対して畏敬の念を持つての生活様式、これらを踏みにじるような「援助」などあるはずがありません。そして、今や日本にとつてかわり、中国資本がホテル、観光施設、土地の実質的な

買収、要人への露骨なワイロばらまきなど、この国も「大国のエゴ」に振り回されているのが見てとれます。

太平洋の小さな島々は間違いなく「世界の縮図です」。『星と波と風と』で描かれた世界、語られる言葉の一つ一つが今更の様に私の心によみがえって来るのです。

この航海における寄港地は日本→マーシャル諸島→ポンペイ(旧ボナペ)→チューク(旧トラック諸島)→ヤップ→パラオ→グアムです。

*現代座会館で報告会を開きます。(8ページお知らせ欄)

ケニメデ大酋長のこと

木村 快

ミュージカル『星と波と風と』は1988年にミクロネシア連邦ヤップ州で、酋長会議代表(公職名)ケニメデ大酋長と語り合い、日本の経済支援が現地の人々にどう受けとめられているのかを描いた作品です。

当時、新設されたヤップ島の州議会では日本の経済支援は大歓迎でしたが、昔からの酋長会議では「経済支援道路は地域社会を分断し、助け合いの心を失わせる」と反対し、議会と争っていました。そのため、村長の許可がないと村へ入ることができません。交渉の結果、私一人だけの入村が許されました。村を訪ねる途中、日本軍の戦闘機の残骸が放置されていたのを思い出します。ジャングルの奥にある村の入り口は車の侵入を阻むため、丸木橋だけでした。

ケニメデさんとは自由に語り合うことができました。戦前のミクロネシアでは日本語が公用語だったからです。ケニメデさんは、日米戦争で打撃を受けたこの村が、戦後、アメリカの援助も受けずに再建できたのは伝統的な共生の暮らしを守ったからだと言っていました。私はあらためて「豊かさ

よみがえる『星と波と風と』 山口県光市・たね時く人たち



高橋聖子



梅津敏英

光市に移住してもうすぐ30年。1992年に陶磁器製造の「岩屋快山窯」を開窯し、現在は釉薬を使わず塩だけで彩色する「塩釉」の作品を作っています。それ以外の活動は高橋聖子と共に行っていることに取り組んでいます。大きなものとしては、年に1度開催する光市民ミュージカル、そして公演を重ねる中で「もっと芝居がしたい」というメンバーが集まりNPO法人劇団「たね時く人たち」を設立しました。現在県内の小中学校での公演を展開しています。他劇団の演出や照明、小学校の演劇指導、高校演劇の審査員なども手がけています。

市民ミュージカルは1999年に下松市で『きばのないおおかみ』を上演した時から始まりまし。光市では翌年、公報や口コミで出演者・スタッフを募集し200名の参加がありビックリさせられました。出演者を全て入れ替えての2回公演。稽古も2倍必要で大変な取り組みでした。おかげで光市の1年の出来事ベスト1となりました。

今年度は8月27日に木村快さんのミュージカル『星と波と風と』を上演しました。参加者は40家族、60余名。昨年までは1時間ちよつとの作品が主でしたが、今回は2時間近い作品。しかも30年前に書かれたもので、果たして役者やお客様が喜んでくれるだろうか、テーマが届くだろうかと心配でした。30

代以下の若者にはバブル時代の話も通じません。当然ミクロナシアでの戦争のことなど知りません。携帯電話どころか台車付きトランクやデジタルカメラもない時代。劇中の「円高パンザイ」を歌う時代背景やカメラの使い方も教えなければなりません。しかし、そんな心配は必要ありませんでした。光市には光工廠という軍事施設があり、終戦前日に空襲を受けた街。お客様の中にも体験者や遺族の方たちが多数おられ、予想を超えた反響がありました。送り出しでの「今年はずよかった。感動したよ」との声に役者たちも大喜び。時代を超えて感動を与えられる、作品の深さを実感させられました。

そろそろ来年の公演に向けて動き始めます。1月に募集を始め、2月にオーディション。6月からは週3、4回の稽古が続きます。冷房のない体育館での稽古のため、熱中症ギリギリの稽古となります。その間に大道具や小道具、衣裳、ポスターなども全て手作りします。公演終了後の感動はここに記載する必要もないほど大きく深いものがあります。

何やかやで二人とも毎日忙しく、元気に過ごしています。

(梅津敏英)



◆港から村へ向かう平原には旧日本軍の戦闘機の残骸が放置されていた。

◆深いジャングルの中、村の入り口は車の進入を阻む丸木の橋だった。



は何か」を考えさせられました。

『星と波と風と』は思いがけず高い評価を受け、3年間で全国191回の公演を重ね、劇団再建の力になりましたが、ヤップ州議会ではついにケニメデさんの主張は敗れました。ケニメデさんを励ますため、1991年7月、東京朝日生命ホールの千秋楽公演にケニメデさんを招きました。するとケニメデさんは私の前で手をつき、「モウシワケありません、わたしたちはついに負けました」と涙を流されました。

私は「いいえ、私はあなたからたたかう勇気を貰いましたよ。これから私もたたかいます」とこたえるのが精一杯でした。ケニメデさんは「日本人に感謝したい」と、ヤップ島伝統の正装で満場の観客にお礼の言葉を述べました。



◆舞台の上から正装で観客に礼を述べるケニメデ氏。「大酋長」は東京都から賓客として迎えられました。

◆現在のヤップ島を貫く舗装道路。ヤップ伝統のシンボル「石貨幣」は観光のシンボルに。2016年 武本匡弘 撮影



ブラジル力行会百周年記念

りきこうかい

◆ブラジル力行会百周年記念のつどい

2017年9月18日、サンパウロ市で「ブラジル力行会百周年」の集いが開催された。数年前から参加をすすめられていたが、参加できなかった。

この集いに参加された日本常民学会の森武磨（一橋大学名誉教授）さんが、先日、報告に来て下さった。記念写真には、いろいろお世話になった方々と共に、1990年代のブラジル力行会会長だった永田久さんのお元気そうな姿が写っていた。森さんはさらにアリアンサのコムニダーデ・ユバを訪問され、矢崎正勝に私の近況を伝えて下さったとのこと。矢崎は1994年以来、共に資料発掘を続けた仲間である。

私は1978年にブラジルの移住地取材に出かけた際、日本力行会が開設した「アリアンサ移住地」（1924年開設）を訪問。なぜかこの移住地だけで、子どもまで日本語を話していた。なぜこんな移住地があるのか。それから移住資料に関心を持つようになった。

◆国から捨てられた『ブラジル移民史』

調査を進めるうちに、戦前戦後、30万人に及ぶブラジル移民を送り出した日本国は、1945年以後、移民史・植民地史を近代史から抹消してしまったことが判明した。戦後の日本人は学校教育のみならず、専門機関からさえ移民の歴史を知ることが出来ない。先進国としては例のない暴挙であるが、それがグローバルな時代を迎えた日本人の先進性だったかもしれない。

母国から消されたブラジル移民の歴史では、アリアンサ移住地を建設した日本力行会が明治時代から大きな役割を担っていたが、日系社会の公的移民史とされる『移民80年史』には日本力行会は名前も出てこない。

◆移民の人権を守った力行会移住地アリアンサ

日本力行会とは1987年（明治30）、ドイツ・リフォームド派東京神田教会の牧師島貫兵太夫が、貧しい学生を救済するために設立したボランティア団体である。力行とは「苦学力行」からとったものだという。当時は学資の稼ぎやすいカナダやアメリカに青年たちを送り、学生同士が相互に助け合うネットワークをつくった。この青年たちの報告を本部で集約し、わが国にとつての海外事情の情報源として大きな役割を担った。大正デモクラシーの底辺を支えたと言っている。

20世紀に入ると、アメリカは日本移民を禁止する。この時からブラジル移民が始まるが、実態は移民会社による搾取と帰国を保証しない国の棄民政策だった。力行会は移民を守るため、1921年（大正10）に移住者自身の協同組合による移住地建設に取りかかり、

日本国内では「移住組合法」の実現に努力する。運動を支えるため海外学校を設立し、多くの活動家を育成し、ブラジル移住地建設に送り込んだ。こうして生まれたのがアリアンサ（協約の意）4大移住地である。

◆戦争責任を隠蔽する戦後日本

残念ながら、「移住組合法」は1927年（昭和2）の政変で登場した政友会内閣の軍事路線化で、中身为国策移民用にすり替えられ、それまで準備を進めてきた力行会派は逆に排除されてしまった。以後、国策による大量移民が帰国不能のまま送り込まれる。

戦後、国はこうした行為を隠蔽するために、移民史・植民地史を抹消したと思われる。国につながる日系指導層は、逆に日本力行会の功績を抹消することになる。

現在、日本の伝統を守り、日本語が通じる移住地はアリアンサだけである。ブラジル移民100周年にあたる2008年、ブラジル連邦政府はアリアンサ・コムニダーデ・ユバに文化功労賞を授与した。創業者弓場勇は移住地建設・第1次力行会員移住者である。

◆歴史を見直して欲しい

私は調査のまとめとして、2014年に『共生の大地・アリアンサ』を刊行した。ブラジル側では歴史専門家の協力でポルトガル語による『Aliança』として出版された。しかし、個人による史実の探求には限度がある。日系人のアイデンティティを確保するためにも、今後多くの人たちに願いを託したい。

われわれは環境を破壊し、自ら共生能力を捨て去り、どうやら行き着くところまで行き着いたようだ。これから始まる苦難の時代に向かって生きていく人たちは、何よりもまず、過去の歴史を知らなければならぬ。歴史を見直して欲しい。

木村 快



座っているのは矢崎正勝さん。数年前から身体をこわし、歩行困難だという。後、（左）日本常民学会の森武磨教授と（右）日本力行会事務局課長 田中直樹さん。アリアンサ・コムニダーデ・ユバにて。

現代座会館の現状
3F 「小さなNPO劇場」

◆2017年8月10日・11日
りんどうの会

江戸川乱歩原作 『心理試験』

構成演出・杉山龍



杉山龍の「りんどうの会」は現代座会館を常打ち劇場として上演しています。2014年から合唱と演奏と芝居構成のトルストイ作『人はなんで生きるか』、ピアニ演奏と朗読を構成した有島武郎作『一房の葡萄』など、比較的硬派の作品を上演していますが、今回は一転して、ヴァイオリン演奏と組み合わせた江戸川乱歩作『心理試験』を上演しました。

『心理試験』は江戸川乱歩の出世作となった短編小説ですが、これを劇場用に構成すると、読む推理劇とは全く別な奥行きが見えてくるからふしぎです。今回は若い観客が多く、新鮮な小演劇として受け止められたようです。

◆「小金井に映画館をつくらう」第1回目の企画
満員の盛況でした

市民による自主上映会が盛んな小金井市。でも上映会場に適した場所は少ない。映画を見たあとで気軽にお茶でも飲んでお喋りができて、人が集える場所が小金井にもあつたらいいなあ。こんな想いがちよつとずつ集まって、そうだ！「小金井に映画館をつくらう」という動きが始まりました。

1回目の企画は、8月6日(日)に現代座3階の小さなNPO劇場で『さとにきたらええやん』を上映しました。大阪市西成区釜ヶ崎、日雇い労働者の街と呼ばれたこの地で、38年にわたり子どもの集いの場として活動を続ける「こどもの里」が舞台のドキュメンタリー映画です。メンバーは日頃から小金井でさまざまな市民活動を続けたり、子育てや子どもの居場所についての関心が高い人たちで、『さとにきたらええやん』の評価も高く、準備期間が1ヶ月しかないなか急遽上映会が決まりました。

当日は3回の上映とも満席という嬉しい結果でした。上映後は、市内で地域の寄り合い所「また明日」を運営する森田真希さんと、「こがねいこども遊パーク」の邦永洋子さんによるトークをおこないました。みんなの居場所・誰もの居場所について改めて考える、実り多いトークとなりました。

今後も市内のいろいろな場所で映画上映を続けながら、多くの人が集える、夢の「映画館」を小金井につくることを目標に、地道に活動をしていこうと考えています。お気軽にプロジェクトへご参加下さい。いっしょに映画を見ましょう！(水由章)

「小金井に映画館をつくらう」プロジェクト
(担当:みずよこ、はなぶさゆ) TEL: 0422-38-6424

Email: info@yashinofilms.com

現代座会館 8月〜10月 活動日記

- 7月29日 「現代座レポート71号」 発送作業
- 9月1日 現代座創造グループ会議
- 24日 「SPレコード雑談会」
- 28日 現代座創造グループ会議
- 10月30日 日伯経済文化協会専務理事・栗田政彦氏来訪
- 11月1日 森武麿先生来訪
- 毎月第3木曜日 「緑町ふれあいサロン」

【現代座ホール】

- 8月23・24日 劇団希望舞台「釈迦内枢唄」稽古
- 9月4日〜10月1日 クロジ「銀の国金の歌」稽古
- 10月7・8日 川西町演劇研究会「父と暮せば」公演
- 16〜30日 燐光群「くじらと見た夢」稽古

【三階小ホール】

- 8月6日 「さとにきたらええやん」上映会
- 10・11日 りんどうの会「心理試験」公演
- 20・21日 劇団希望舞台「釈迦内枢唄」稽古
- 24・27日 劇団ハケツまみれ「おもいおもい」公演
- 9月20日 飯村先生「夢風船」練習
- 22・23日 スタジオ・ポラーノ稽古
- 27日 朗読教室発表会
- 28・29日 スタジオ・ポラーノ稽古
- 10月1・8日 劇団希望舞台「焼け跡から」稽古
- 13・15日 ヤングブラザーズ「バグgett・ネイション」公演
- 22・27日 劇団希望舞台「釈迦内枢唄」稽古
- 隔水曜日 朗読教室
- 毎火曜日 ヨガ教室

【定期使用 一階サロン】

- 毎日曜日 教育文化経営学院(学生支援)
- 毎月曜日 子どもクラブ・バンビーノ
- 毎水曜日 熟年パソコンサークル
- 隔木曜日 iPad熟年講座

お 知 ら せ

TEL 042-381-5165
FAX 042-381-6987

『星と波と風と』報告会

帆船で巡った太平洋
16,000kmの帆船プロジェクト

現代座の作品「星と波と風と」からタイトルをお借りしたこの航海プロジェクトは、交流を続けているミクロネシアの島々を帆船で訪れるという目的で行われました。

しかし、作品の舞台になったヤップ島を始め、太平洋の島々で様々な変貌ぶりを目にしました。

更には、海で見て知った海洋の変化、異常な海水温の高さ、頻りに目にする漂流ゴミや漁具、巨大積乱雲による豪雨、気候変動の兆しなど、スライドと迫力あるハイビジョン動画も使った報告会です。

報告者： 武本匡弘
日 程： 12月9日(土)
時 間： 15時～16時50分
場 所： 現代座会館3階小ホール
参加費： 一般800円 大学生500円(小中学生無料)

申し込み方法

電 話： 090-1261-0365 現代座 担当中村
F A X： 046-877-5474「星と波と風と」係
メー ル： takemoto@jcom.zaq.ne.jp 担当武本

心をつなぐ 新春バラエティ劇場

日時： 2018年1月13日(土) 14日(日)
場所： 現代座3F小ホール
開演時間と料金は未定

紙芝居、朗読、落語、みんなで歌おう
などなど もりだくさん!!

出演者： 黒澤義之 中村保好 石川秀樹
みきさちこ 東志野香 矢川千尋

初心者向け ヨガ教室

どなたでも、いつからでも、始められるヨガです!
完璧なポーズを作ることよりも、
まず自分の身体を知ること、
気づくことを大切にします。

他者と比べない、
ありのままの自分を味わう時間を過ごしませんか?

毎週火曜日 現代座会館 3F

10:15～11:15 (60分) 初心者クラス 1000円
11:45～12:55 (70分) 女性のための骨盤ヨガ 1500円
14:00～15:00 (60分) 椅子に座ってできるヨガ 1000円

お待たせしました!! 待望の!? 夜クラス開催!!
19:00～20:10 (70分)

動いてゆるめて&メディテーション 2000円

講師：志野(しの)
メール：info@yoga-lifemaker.com
WEBサイト：http://yoga-lifemaker.com

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円
協賛会員 10,000円(1口以上)
郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座